

## 女性の性感染症（STD）の特徴について

**Q：**最近、性感染症に罹患する女性が増えていると聞きましたが、それぞれの特徴と治療法について教えてください。

**A：**性感染症は、それぞれ特徴があります。感染しても症状がない場合もあるため、感染が広がる原因になっています。

また、パートナーと一緒に治療をすることが完治させる上で大切です。

女性のSTD（sexually transmitted diseases）で代表的な疾患はクラミジア感染症、トリコモナス膣炎、性器ヘルペスである。好発年齢は20歳代であるが膣トリコモナス症は30～40歳代である。これらの病原体が無症候性感染してキャリアになると、卵管性不妊症、産道感染、子宮頸癌などの原因になることもある。そのための確な診断とセックスパートナーと同時に治療を行うことが大切である。

感染症新法による全数報告義務疾患はエイズと梅毒であり、定点報告義務疾患は性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖形コンジローム、淋菌感染症の4つである。

### クラミジア感染症

症状	特徴	主な治療薬
<ul style="list-style-type: none"> <li>潜伏期間は1～3週間</li> <li>帯下増量、不正出血、下腹部痛、性交痛</li> <li>骨盤内炎症では急逝復症様症状、卵管通過障害による不妊症</li> <li>症状はでないことも多い（男性）淋菌に比べて症状は軽い、尿で洗い流されることが多い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラミジア・トラコマティスによる感染</li> <li>罹患者はすべてのSTD中で最多 女性の4/5、男性の1/2が無症候</li> <li>産道感染による新生児の結膜炎・咽頭炎・肺炎あり</li> <li>オーラスセックスによる咽頭炎、扁桃腺炎</li> <li>妊婦では流早産の原因</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テトラサイクリン系 ミノマイシン等</li> <li>マクロライド系 クラリス等</li> <li>ジスロマック1000mg単回投与</li> <li>ニューキノロン系 クラビット等</li> <li>内服：1～2週間</li> </ul>

### 性器ヘルペス

症状	特徴	主な治療薬
<ul style="list-style-type: none"> <li>感染後2～10日で外性器に強い痛みを伴う1～2mmの水疱、数日以内に潰瘍となる</li> <li>リンパ節腫脹、高熱、疼痛、ときに排尿困難、便秘、頭痛</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単純ヘルペスウイルスI型・II型による感染（潜伏するため再発率が高い）</li> <li>初感染時は症状が強い（リンパ節腫脹、発熱、疼痛、排尿困難、便秘）</li> <li>非初感染初発と再発時では症状軽い</li> <li>唾液中に排泄されたウイルスとの接触による感染（手指や器具から）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゾビラックス等</li> <li>アラセナA軟膏等</li> <li>内服：5日間 （薬剤は潜伏感染に無効で、感染は生涯つづく）</li> </ul>

## 梅毒

症状	特徴	主な治療薬
<ul style="list-style-type: none"><li>・潜伏期間は3～4週間</li><li>・外陰部に潰瘍性病変</li><li>・約3カ月後に全身に発疹</li><li>・大半は潜伏で終始する</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・梅毒トレポネーマによる感染</li><li>・1回の性行為で感染する確立が15～30%と高い</li><li>・オーラルセックスによる咽頭梅毒</li><li>・妊婦から胎児に胎盤感染することある</li><li>・感染後2年程度は強い感染力があるがそれ以降は大幅に低下する</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ペニシリン系 アモキシシリン等</li><li>・エリスロマイシン系</li><li>・テトラサイクリン系</li><li>・ニューキノロン系</li><li>・内服：2～4週間</li></ul>

## 尖形コンジローム

症状	特徴	主な治療薬
<ul style="list-style-type: none"><li>・潜伏期間は1～3カ月</li><li>・外陰部に尖ったいぼが多数できるが軽い痒みで症状は軽い</li><li>・無症候性感染がかなり多いが経時的に消失する例も多い</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ヒトパピローマウイルス（HPV）による感染（大部分が良性の6型、11型等）</li><li>・悪性型（16型、18型等）のウイルスで外陰癌や子宮頸癌発生のリスクがある</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・外科手術が最も確実</li><li>・5FU軟膏等（保存的治療）</li></ul>

## 淋菌

症状	特徴	主な治療薬
<ul style="list-style-type: none"><li>・潜伏期間は2～7日</li><li>・膿性の帯下(約半数は無自覚)（男性）強い排尿痛、膿性の尿道分泌物</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・淋菌による感染</li><li>・クラミジアに次いで多いSTD</li><li>・オーラルセックスによる咽頭炎、扁桃腺炎（症状が少ない）</li><li>・深部感染で腹膜炎、腹膜内癒着、不妊症</li><li>・クラミジアとの同時感染が多い</li><li>・1回の性行為による感染率は30%と高い</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・第3世代セフェム系 セフspan、ノイセフ等</li><li>・アミノグリコシド系 トロビシン</li><li>・テトラサイクリン系</li><li>・ニューキノロン系</li><li>・内服：3～7日間（原則3日）</li><li>・筋注：単回</li></ul>

## 膻トリコモナス

症状	特徴	主な治療薬
<ul style="list-style-type: none"><li>・泡沫状の黄色い悪臭のある帯下と掻痒感（男性）症状軽く気づかないことが多い</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・トリコモナス原虫による感染</li><li>・性行為以外では公衆浴場やタオルからの感染あり</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・フラジール、ファシジン等</li><li>・内服：単回または7日間</li><li>・膻錠：7～14日間</li></ul>

## エイズ (AIDS)

症状	特徴	主な治療薬
<ul style="list-style-type: none"><li>急性期：感染後4～8週間インフルエンザ様症状</li><li>無症候期：個人差あり数年リンパ球数の減少</li><li>AIDS発症期：致命的な合併症を繰り返しAIDS発症後5年以内にほとんど死亡</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>エイズウイルス (HIV) による感染</li><li>他STD合併者ではパートナーへのHIV感染性を高める</li><li>他のSTD保有者ではHIV感染の危険性が高まる</li><li>子宮内感染、出産時感染、母乳による感染</li><li>針刺し事故、注射針の共有による感染</li></ul>	ヌクレオシド系逆転写酵素阻害剤2剤とプロテアーゼ阻害剤1剤（又は非ヌクレオシド系逆転写酵素阻害剤1剤）による3剤併用療法

### 自治体の検査システム

保健所や保健センターなどでは随時AIDSに関する相談や無料で匿名のHIV抗体検査やほかの性感染症検査が行われている（HIV検査・相談マップ（厚労省）→ <http://www.hivkensa.com/index.html>）。また保健所以外に全国に366カ所あるエイズ拠点病院や一般の医療機関でも検査を受けることができる（北海道の拠点病院については道薬誌2005年9月号参照）。HIV感染の場合は最後の性行為から2カ月経過後に検査を行うなど潜伏期間を考慮して検査を受ける必要がある。

また母子感染による次世代への感染予防の観点から、多くの地方自治体において妊婦健康診査の中で梅毒とB型肝炎検査が無料で行われている。なお、性器クラミジア感染症、淋菌感染症、HIV感染症などその他の妊婦の性感染症健診については地方自治体によって対応が異なっている。

### 予防

最近、性感染症が増えているのは、なかなか感染に気づかないこと、人々の性活動が活発になったことがあげられる。また性行動の多様化によりコンドームを使用しているからといってまったく安心というわけではない。男女ともにセーフティセックスを心がけることが大切である。

### 【参考資料】

- (1) medicina, 33(9), 1700, 1999
- (2) 大阪府薬雑誌, 54(11), 31, 2003
- (3) 日本薬剤師会雑誌, 51(11), 1645, 1999
- (4) 薬局, 56(6), 111, 2005
- (5) medicina, 38(1), 89, 2001
- (6) 治療, 84(7), 2002